

中高生タイムのPR用CD作成と近隣中学校放送委員会との関わり

取組の背景・目的

児童福祉法が改正され、学齢期の子どもたちに学校や家庭以外の安全・安心な居場所を提供し、支援していくことが求められている。

練馬区の児童館では「中高生の居場所づくり事業」として、中高生の居場所と自己実現の場として交流や音楽活動が行える専用の時間帯「中高生タイム」を設けている。また、その時間内に飲食をしながら気軽に悩みを話したり相談したりできる「中高生カフェ」を実施している。

児童館の「中高生の居場所づくり事業」を周知し、中高生の利用を促すことを目的に、従来のポスター掲示やチラシ配布に加え、以下の取組を実施した。

取組の概要

取組1 児童館PR用CD「おいでよ♪北大泉児童館」の制作および放送

第1弾は児童館の利用方法、開館時間、中高生タイム、中高生カフェの紹介を盛り込み、3分程度のものを制作した。制作にあたっては大学生ボランティアに協力依頼をし、職員が録音した。

第2弾は中高生タイムの音楽活動に特化したものを制作した。利用する音楽（シングル）については児童館の音楽クラブで発足したバンドメンバーたちが演奏し、セリフについても担当した。

制作したCDは令和5年2～3月と5～6月に近隣の中学校3校と高等学校1校で放送していただいた。



取組2 近隣中学校放送委員会との関わり

放送を依頼する過程で、近隣の中学校の放送委員会が非常に活発な活動をしていることがわかった。「中学校としても放送委員会の活動を外部にアピールできる場所があればよい」と伺ったことが契機となり、中学校の放送委員会と連携し、共同企画を行った。

事例1：児童館における帰り時間のお知らせ放送

放送委員の生徒と相談し、毎日児童館で流している帰り時間のお知らせを録音した。これに加え、中学校の校内放送で人気のじゃんけんゲームを児童館でも流し、来館児童に楽しんでもらった。

事例2：中学校放送委員会企画に出演

中学校の昼食時間の放送で実施しているインタビュー企画に児童館職員がゲスト出演した。

事前に放送委員会で募集した質問に答える形で「中高生の居場所づくり事業」についての紹介を行った。



工夫点・留意点

・取組1について

CDの制作には、利用している中学生や高校生によるバンド演奏などのスキルを活用した。

CDの構成編集は区内にある大学の学生ボランティアに協力を依頼し、児童館に来館したことがない中学生、高校生であっても、興味を持てる内容になるよう留意した。

・取組2について

放送委員会との関わりについては適宜児童館だよりやホームページ上で紹介を行い、より広く活動を知ってもらう機会を設けた。

取組の効果

・取組1について

黙食の期間中であつたため多くの生徒の耳に放送を届けることができた。初めて児童館に足を運び、「放送を聞いて、どんなところなのか来てみたかった。」と感想を述べた生徒の姿もあった。

児童館は小学生の遊び場として考えていた中高生に、練馬の児童館を知ってもらい、来館のきっかけを作ることができた。

・取組2について

中学校と連携していく中で、中学校が抱える課題や検討事項を共有することができ、児童館として協力することができた。

また、今回の取組がきっかけとなり、委員会や部活動の学校以外の活動場所として、児童館の存在をアピールし、自己実現の機会を提供することができた。

課題・今後の展開

・「ねりまのじどうかん」としての取組へのひろがり

地域の単館としてのPRだけではなく、練馬区立児童館全17館共通のPR用CDを制作し、中高生の居場所としての周知強化を検討していく。

・近隣中学校等との連携強化

放送委員会との連携を継続するとともに、その他の委員会や部活動等とも新たに連携し、児童館との関わりを通じて、中高生に自己実現の機会を提供することができるよう、中学校・高等学校と児童館との更なる連携を模索していく。